

日米国際交流 DP21 の歩み

ドリームプロジェクト

ドリームプロジェクトとは、小沢一郎代議士が日米草の根交流として 2001 年からほぼ毎年、ラングストンヒューズ小学校の児童と教員を日本に招待しているプロジェクトである。

元来ドリームプロジェクトは、小渕恵三首相（当時）がシカゴを訪れた際、ラングストンヒューズの小学生に感動し、草の根交流の一環として、1999 年に同校児童 5 名と教員 4 名を日本に招待したことに始まる。

その後、2000 年に小沢代議士が同校を訪問し、貧困地域で育った子供たちが、熱心に日本語を学ぶ姿に感銘を受け、児童たちに日本の社会や文化を学んで欲しいと、同校児童の日本への招聘を約束した。

翌 2001 年より同校児童 15 名、教員 5 名を日本に招き、現在まで 100 名を超える児童がこのプロジェクトに参加している。

ラングストンヒューズ小学校日本語教師の異動により、2014 年よりレインテック高校もこのプロジェクトに加わることとなり、春にレインテック高校生徒 10 名、教員 2 名、秋にラングストンヒューズ小学校児童 9 名、教員 3 名を招くこととなった。

（2017 年までラングストンヒューズ小学校に日本語教員が不在のため、秋の訪日は休止。2018 年再開）